

平成 13 年度小中学校教育課程実施状況調査報告書の概要

中学校・英語

1. 今回の調査結果の特色

(1) ペーパーテスト調査の概要

ア 全般的な状況

第1学年及び第2学年について、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計は、それぞれ71問中37問、75問中46問と全体の問題数の半数以上を占めている。これに対し、第3学年は、81問中36問であり半数に満たない。

なお、前回と同一の問題については、第1学年で15問中、通過率が前回は有意に上回るものが2問、前回と有意に差のないものが3問、前回は有意に下回るものが10問、第2学年で19問中、通過率が前回は有意に上回るものが7問、前回と有意に差のないものが7問、前回は有意に下回るものが5問、第3学年で17問中、通過率が前回は有意に上回るものが9問、前回と有意に差のないものが2問、前回は有意に下回るものが6問となっている。第1学年では、通過率が前回は有意に下回るものが全体の過半数を占め、第3学年では、通過率が前回は有意に上回るものが全体の過半数を占めている。

イ 内容領域・観点等からみた特色

(ア) 「聞くこと」

「聞くこと」については、全ての学年において、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が全体の問題数の半数以上を占めている。

これを問題のタイプ別に見ると、全ての学年において、「応答問題」、「詳細理解問題」、「概要・要点理解問題」のうち、「詳細理解問題」及び「概要・要点理解問題」について、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が全体の半数以上となっている。

(イ) 「読むこと」

「読むこと」については、全ての学年において、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が全体の問題数の半数以上を占めている。

これを問題のタイプ別に見ると、「詳細理解問題」、「概要・要点理解問題」、「談話構造理解問題」、「言語使用に関する知識理解問題」のうち、全ての学

年の「詳細理解問題」及び「概要・要点理解問題」、第1学年及び第2学年の「談話構造理解問題」、第3学年の「言語使用に関する知識理解問題」について、設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数以上となっている。

(ウ) 「書くこと」

「書くこと」については、全ての学年において、設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が全体の問題数の半数に満たない状況である。

これを問題のタイプ別に見ると、「トピック指定問題」、「条件指定問題」、「文構造理解問題」の全てのタイプの問題について、全ての学年において、設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が全体の問題数の半数に満たない状況である。

「書くこと」のうち、「自分が大切に思っていること」、「自分が興味を持っていること」のように与えられた一定の主題に基づいて、3文あるいは4文以上のつながりのある文章を書くといった「トピック指定問題」で、求められている下限の文の数を超えて積極的に書いている生徒を、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を強く示しているのとらえた場合、そのような生徒は各学年とも3割程度みられる。

また、「トピック指定問題」について、誤答分析をした結果、覚えている単純な文を反復することはできるが、文章としての展開ができないといった点が見受けられた。なお、今回の調査においては「話すこと」に関する直接の出題は行っていないものの、「書くこと」に関する「トピック指定問題」等の調査結果を踏まえると、「話すこと」についても課題がある状況であると間接的に推測される。

(2) 質問紙調査の結果

「英語の勉強は大切だ」という問いに対して、「そう思う」と答えた生徒と「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒を合わせると第1学年 84.6%、第2学年 84.4%、第3学年 84.7%であり、学年による変化はない。また、ほとんどの生徒が英語の勉強は受験に関係なくても大切だと考えている。

一方、「英語の勉強が好きだ」という問いに対して、「そう思う」と答えた生徒と「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒を合わせると第1学年 58.7%、第2学年 51.1%、第3学年 48.5%であり、また、「どちらかといえばそう思わない」と答えた生徒と「そう思わない」と答えた生徒を合わせると第1学年 37.0%、第2学年 44.5%、第3学年 47.3%となる。学年が進むにつれて英語が好きな生徒は減少する傾向である。

2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

- (1) 「書くこと」の「トピック指定問題」の誤答分析の結果に特徴的にみられるように、英語学習における生徒のつまづき方はきわめて多様であり、個々のつまづきに対応した局所的な指導を行うとともに、全体にわたる指導の繰り返しを常に行っていくことが求められる。
- (2) 「聞くこと」については、疑問文に対して Yes/No で答えるなど文形式に基づいた応答や会話などによく使用される決まり文句については、ある程度身に付いているが、相手の言う内容に応じて適切に応答する力は十分ではない。今後はいろいろな表現に適した応答方法を学習するような言語活動を取り入れていく必要がある。
- (3) 「書くこと」については、覚えている単純な文を反復することはできるが、文章としての展開ができない生徒が多く見受けられる。このため、今後は、トピックを指定してつながりのある複数の文を書かせる指導の充実が必要であると考えられる。また、文構造についての問題の結果から語順が身に付いていない生徒が多いと考えられるので、「聞くこと」「話すこと」の活動を重視する中においても文構造に配慮する指導が重要である。